

## 平成26年度予算案について

(H26.02.07記者発表)

平成26年度の各会計予算案がまとまりましたので、その概要についてご説明申し上げます。

新年度予算の編成に当たっては、その基本的な考えとして、「財政標準化計画」をもとに、収支バランスを維持し、公債費の抑制などに努めるとともに、「第6期総合計画」の着実な推進を図ることとして、編成を行ったところであります。



編成した予算は、都市としての魅力を高め、新たな価値を創造することにより、人口が増加し、発展が続くまちを目指し、子育て支援の充実や教育環境の整備により、若い世代の定住促進を図るとともに、観光・スポーツを中心とした交流を加速するなど、活力に満ちた予算とすべく『新たな明日を創る“躍動”予算』として、取りまとめたところであります。

このほか、景気・雇用対策では、消費税率引上げに伴う市内経済への影響を踏まえ、新年度予算と一体となって、平成25年度補正予算において「経済対策」を実施し、切れ目のない持続的な対策を図ることとしております。

予算の概要であります。新年度は、新たな体制として「観光スポーツ部」を設置します。

この新たな部が所管する「道の駅リニューアル事業」では、駐車場等の外構工事を実施しますが、年内には民間事業者による核となる施設の建設や、千歳サケのふるさと館のリニューアル工事も始まり、27年度の一斉オープンに向け、いよいよ本格的に事業が動き出すこととなります。

子育て・教育では、「北新子育て支援センター、（げんきっこセンター）」が、本年3月に開設いたします。

引き続き、同センターの整備を行うとともに、児童館での「ランドセル来館事業」の実施など、子どもの放課後対策を積極的に進めるほか、学校教育においては、新たに小学校に「学習支援員」を配置し、基礎学力の向上を図るとともに、ICT機器等の整備を推進します。

新年度の予算額であります。一般会計では、364億1千万円となり、前年度比で62億8千2百万円の減となっております。

予算規模としては、前年度を大きく下回っていますが、新年度においては、土地開発公社貸付金に係る予算計上がないことから、これによる68億円の影響額を除くと、今年度を実質1.5%、上回る結果となっております。

また、特別会計の合計額では、147億9千9百万円となり、前年度比で、7億8千4百万円の増となりました。

これに公営企業会計を加えた総体額で、675億5千万円の規模として取りまとめたところであります。

なお、平成26年度の重点施策につきましては、「活力」と「安心」の2つを柱に、63の細事業を位置付け、千歳市の持続ある発展のため、重点的に取り組んでまいります。

この予算案につきましては、3月3日に開会予定の第1回市議会定例会に提案してまいりたいと考えております。